

八王子学園八王子戦

1月11日（日）に新人戦本大会の八王子学園八王子戦が行われました。

高島 30 - 110 八王子学園八王子

前年度インターハイ2位、2週間前まで行われていたウィンターカップではベスト8に入っている全国区の超強豪校との対戦でした。圧倒的な高さ、能力を持った相手に対してどれだけ臆せず戦うことが出来るかということをテーマに掲げ、我々のチャレンジを見た人たちが勇気づけられるような戦いをしようという話をし、ゲームに臨みました。

相手の高さ・速さに苦しめられ思うようなプレーをさせてもらえない中、厳しいDFをかいくぐって3Pシュートで得点をあげたり、相手の強力なインサイドへのパスを予測してパスカットにつなげるなどいいプレーも随所に見せ、最後まで戦い抜いたものの、大差での敗戦となってしまいました。

全国トップチームからの学び

八王子学園八王子と公式戦の場で対戦したことでの学びは数多くありました。

特に印象に残っているのは、たとえ点差がついても自分たちのやるべきことに対して絶対に妥協しない八王子学園八王子の選手たちの姿勢です。同校のプレッシャーをかけるアグレッシブなゾーンDFは全国大会決勝でも、都内の大会でも変わらず、強度が落ちません。今回の大会は勝てば2日で3試合を行うハードな日程であり、先を見て気を緩める時間帯があっても不思議ではありませんが、その隙を全く感じさせませんでした。また、前半で点差がついた後もハーフタイムにDFのフットワークを再度確認し、前半以上にDFの強度を上げてきたところに我々が学ばべき彼らの意識の高さを強く感じました。前半で大量リードを奪ったチームは後半控えメンバーが出ることもあり得点差が詰まることも多いのですが、逆に後半の方がハードなDFから速攻が出る場面が増え、前半以上に点差をつけられてしまいました。

我々が逆の立場で点差をつけて前半を終えられたとき、同じ姿勢でバスケットが出来るか？普段の練習からあれだけの厳しさを自分たちに課して高いレベルで取り組むことが出来るか？体感したからこそ気が付ける全国トップチームのすごさを自分たちの変化につなげることが出来た時、この敗戦が価値あるものになるのだと思います。

大差での敗戦を受けて

学ばべき点の多い素晴らしいチームであったとはいえ八王子学園八王子は同じ高校生のチームです。どれだけ実績のある相手であろうが、大差での敗戦を仕方がないで済ませているようでは我々に未来はありません。4支部大会を勝ち抜き、強豪チームへの挑戦権を得た我々はもっと食らいつき、都立高校でもここまでできるんだということを示すことが求められていたし、それが出来たはずだと信じています。

決して、高島の選手が不甲斐なかったとは思いません。彼らはこの一戦に向けてモチベーション高く日々の練習に取り組みました。ただ、1か月の準備期間がありながら、コーチである私が彼らに提示したものがこのゲームにマッチしていない部分があり、ゲーム途中でプランの変更をせざるを得ませんでした。そこは単純に私の勉強不足であり、たとえ現時点での勝ち負けは変えられなかったとしても、もう少し拮抗したゲームにする力はあったはずです。

春・夏の公式戦でも勝ち上がれば必ず格上とされるチームとの対戦があり、相手が違っていてもその時には違った姿を見せなくてはなりません。その為にも、この経験を絶対に無駄にせず、我々は立ち上がります。